

## 〈コミュニティ〉と〈ソサエティ〉

**濱野** さて、ということでは今日皆さんに覚えて帰っていただきたいのは、〈コミュニティ〉（共同体）と〈ソサエティ〉（社会）という2つの言葉の区別です。普通の意味だと、社会も共同体も、なんとなくイメージとしては「たくさんの人がワシヤワシヤといて何かをいっしょにしている」というものだと思うんですね。だから、そんなにこの2つの言葉を皆さんも区別なく使っているかもしれない。

さきほども言ったように、最近「ソーシャルメディア」と呼ばれているものは、少し前までは「ネットコミュニティ」と呼ばれていたわけです。かつてはSNSもツイッターもなく、掲示板とかメーリングリストが主でしたから、ネットサービスのアーキテクチャが変わってきたというのは確かです。

でも、基本的には、「ネット上で大勢の人が集まってワシヤワシヤと何かをコミュニケーションしたりする」という点では同じようなものですから、なぜ同じものを「ネットコミュニティ」と呼んだり「ソーシャルメディア」と呼んだりするのかというのは、実は立ち止まって考えてみる必要があると思うんです。

というのも、社会学では〈コミュニティ〉と〈ソサエティ〉というのは伝統的にはつきりと峻別されてきた概念なんです。だからまっとうな社会学者であれば、「結局コミュニティなの、ソサエティなの、いったいどっちなんじゃない！」と思うはずなんです。

ということでは、〈コミュニティ〉と〈ソサエティ〉がどのように区別されているのかというところをまずはご説明したいと思います。

いきなり表（次ページ）が出てくるんですが、まずは〈コミュニティ〉のほうから説明します。

〈コミュニティ〉というのは、具体的な例で言う地域共同体とか家族共同体とか——これは家庭のことですね——要するに狭くてローカルな範囲の人間集団を指します。

これに対し、〈ソサエティ〉というのは、具体的なイメージでいえば「都市」なんです。広範囲の場所に、たくさんの見知らぬ人々が集まっている場所。

あるいは「市場」。ここでは「いちば」と読むほうの「市場」でイメージして

	コミュニティ(共同体)	ソサエティ(社会)
例	地域共同体 家族共同体 など	都市 市場 国民国家 など
どうやって	生得的： 自由意志で 選択不可 (生まれたときから 決まっている)	契約的： 自由意志で 選択可能 (利害関係の一致したも 同士で一時的に結社する)
規模	小さい	大きい
メンバー	単純・均一	複雑・多様
関係性	顔の見える 関係性	見知らぬもの 同士の関係性 (匿名的)
時間	長期的 安定的 同期的 (同じ時間と場所を共有)	短期的 流動的 非同期的 (同じ時間と場所を 共有せず、ばらばら)

もらえばいいと思うんですが、見知らぬ人々が遠くから集まってきて物を売り買  
いする場所、それが「市場」です。マルクスの有名な言葉に、「市場は共同体と  
共同体のあいだに発生する」というものがあるのですが、まさにそれです。  
あるいは「国民国家」。要するに「日本」とか「アメリカ」といった社会集団。  
これは普通は「ソサエティ」と呼びます。

次に、「どうやって」その集団が形成されるのかについて比較してみます。  
何が一番はつきり違うかというと、「コミュニティ」というのは、普通は自分  
で選択するものではないんですよ。「家族は自分で作るだろう」という細かい  
ツツコミはあるんですが、基本的にはとんどの人はある地域に生まれ、そこを故  
郷とし、ある家族に生まれますが、どの地域共同体や家族共同体の中に生まれる  
かを自由意志で選択することはできない。生まれた瞬間に決まってしまう。人は  
その条件を引き受けるしかないわけです。これが「コミュニティ」のポイントで  
す。

これに対し「ソサエティ」というのは、「契約的」といいますが、個人の自由  
意志でどの「社会集団」に入るかを選択できるし、入ったり出たりするのも自由

4 濱野「共同体は地域など、生得的で選択不可で顔が見える関係。社会は、  
都市的で自由意志による選択可能さ、多様さを含む匿名的な関係」(eshintaro)

です。これが「社会」ないしは「ソサエティ」の特徴です。社会科学系の用語では、「ソサエティ」とは別に、「結社」という意味の「アソシエーション」と言ったりもします。

さらに比較していきます。規模的には、「コミュニティ」のほうは家族とか地域ですから基本的には小さく、都市や国家といった「ソサエティ」のほうが大きくなります。そしてそれはどんなメンバーで構成されているのかというと、「コミュニティ」は単純・均一で、そんなにバラけた人間がたくさんいるわけではない。これに対して「ソサエティ」のほうは複雑で多様な人が参加しています。

そして両者は、「顔が見えるか／見えないか」という関係性のレベルでも違ってきます。いわゆる「顔が見える関係」なのが「コミュニティ」で、「ソサエティ」は見知らぬ者同士で成り立っている匿名的な関係が基本です。

都市とか市場というのは、だいたいは得体のしれない者が集まっているものです。それでも一緒に何かしら作業をしたり、ものを理解したりできるのが「ソサエティ」。

## 時間観念による区別

**濱野** さて、いろいろと比較をしてきたわけなんですが、今日、この後で出てくるポイントで重要なのが「時間」です。

「コミュニティ」にとっての時間と、「ソサエティ」にとっての時間というのはそれぞれ違います。ひとことかというと、「コミュニティ」はタイムスパンが長く、「ソサエティ」は短いというのが特徴なんですね。

例えば「地域」だったら、30年とか100年とか300年の歴史なり伝統があって、それを守っている。家族だって何十年ずっと一緒に暮らすわけですから、長期的に安定した——表では「同期的」と表現していますが——、リアルタイムで同じ時間を共有することが多くなる。

「ソサエティ」はその逆で、非常に短期的な関係が中心です。もちろん「俺はずっとこの街に住む」「日本で永住する」という意味では、個人にとってその「ソサエティ」が長期的な時間性を持つということはありますが、ここで問題にしているのは、その集団に参加している成員同士での時間的な関係性です。